

「町家」絵と文章による情景デザインコンペティション

受賞作品

最優秀賞

最優秀賞

提案のタイトル

町家文化教室 拵処

サブタイトル

作り、集う、ための
「私」と「公」と「共」の間取り
プライバシー 仕事 中立

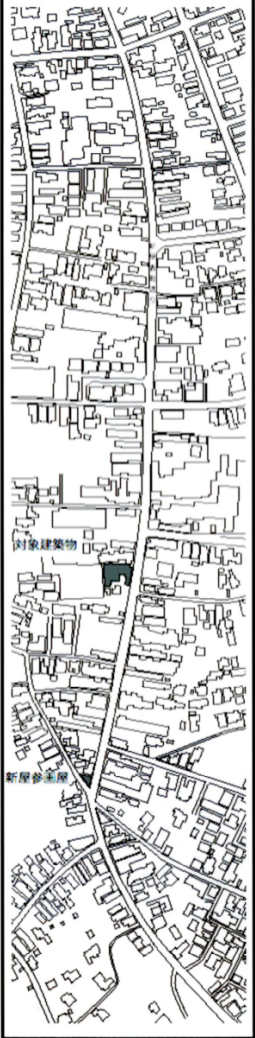
提案の内容

拵える(こしらえる)=物を作り上げる。製作する。
こさえる=こしらえるの砕けた言い方。
「夕飯を一・える」
「自分で洋服を一・える」
「案文の草案を一・える」
「竹を編んでかごを一・える」

町家の利用にあたり、ここで提案する内容は、一個人のモノではなく、みんなのモノにもなりすぎない、共同型文化教室(アトリエ)利用として提案。(ものづくりを行う個人経営者で町家を分割して使用)町のコミュニケーションの場と作家の活動場を一つにし、今も昔も変わらない「ものづくりの町」として象徴している町家。

間取りは、「公用」「共用」「私用(プライバシー)」の流れを作り、「私用」の空間は個人作家が事務所をかまえるため、壁を作り個室状態にします。共同かつ個人経営で町家を利用するため、「私用」の空間ははつきりさせて、誰でも参加してもらえる所と、集中して作業できる場所に付けて、町と作り手の共存を演出しています。

周辺案内図



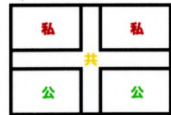
ゾーニング

1階平面図 S=1/100

更衣室は汚れ作業のある文化教室時に使用。

駐輪所はスタッフ用でバイク・自転車等を置く。

教室4は陶芸や彫金等火の使用や、汚れやすい作業を行う所として利用。水場もあるため汚れ物の水洗いも可能。



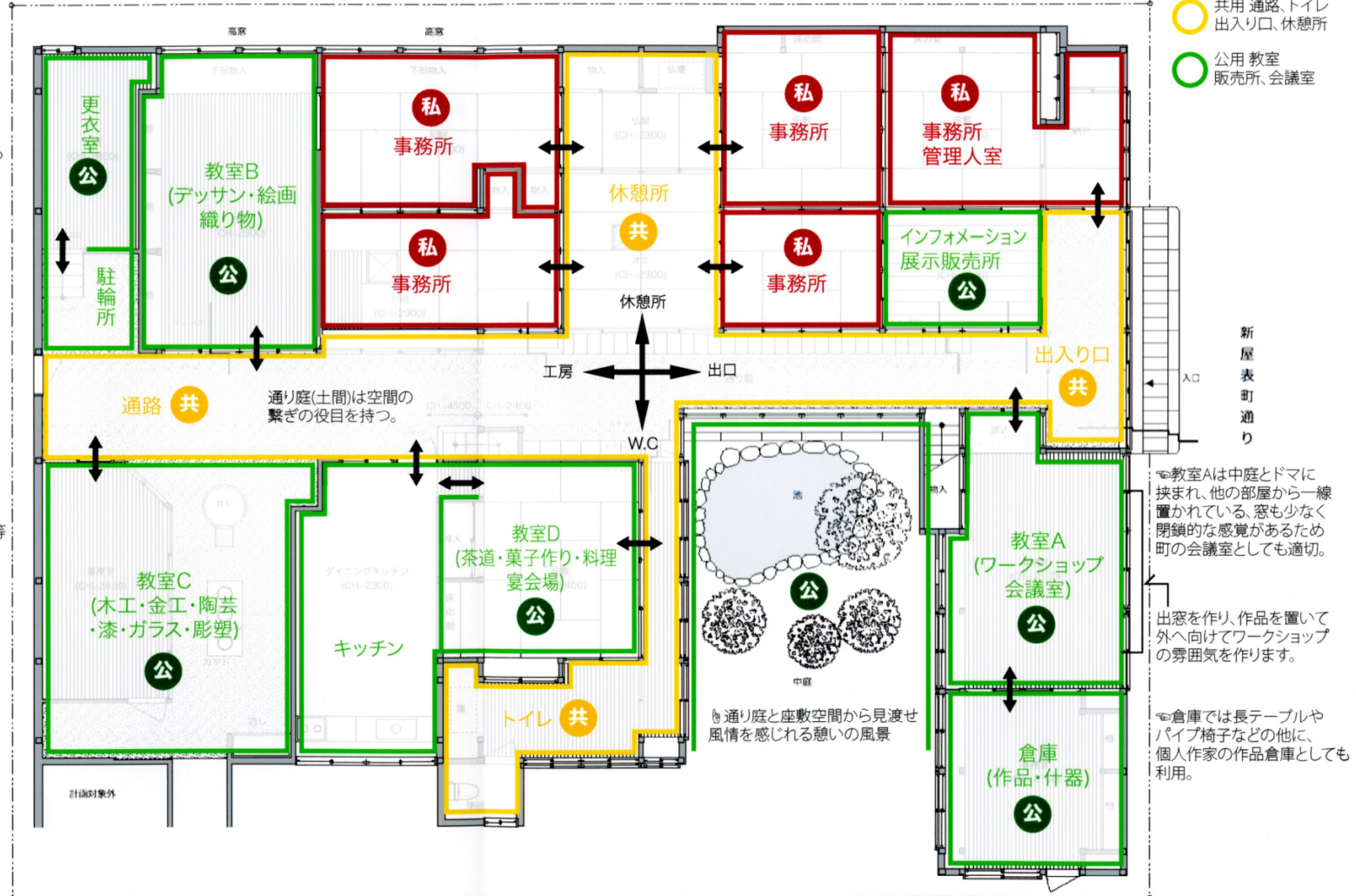
基本的なマトリクス構成~共通空間(通路)が建物の真ん中に十字に走り、私用と公用空間のジョイント効果を持たせています。休憩所から正面にトイレへの導線があるので利用しやすい流れができるとおもいます。

高窓のある「教室C」は電灯をつけなくても、光の入りが良い空間。デッサンなどの作業向き。

私用の意味に事務所は適さないが共同に利用しているプライベート事務所としての私用として受け取ってほしい。

休憩所は「私用」から「公用」の繋ぎ役をする。

管理人はインフォや作品販売所の管理教室の管理を行う。販売所は個人作家の作品を委託販売。



- 私用 個人事務所 スタッフルーム等
- 共用 通路、トイレ 出入り口、休憩所
- 公用 教室 販売所、会議室

教室Aは中庭とドマに挟まれ、他の部屋から一線置かれている。窓も少なく閉鎖的な感覚があるため町の会議室としても適切。

出窓を作り、作品を置いて外へ向けてワークショップの雰囲気を作ります。

倉庫では長テーブルやパイプ椅子などの他に、個人作家の作品倉庫としても利用。

通り庭と座敷空間から見渡せ風情を感じれる憩いの風景

ダイニングキッチンでは比較的新しい空間になっているので料理教室などの衛生管理が必要な作業を行える。

「町家」
絵と文章による情景デザインコンペ



情景1



文章

内観は本格的な町家(みせの間、なかの間、おくの間、通り庭、中庭など)を沢山のの人に楽しんで頂けるようにきれいに整備をした上で、町家の全体をなるべく解放できるよう教室を土間奥にも配置。本来お客が入り込める部分ではないので、町家の空間を楽しんで頂けるはずです。

～僕～

私は、小学校の時、とても図工が大好きな少年でした。それは決して私だけの感覚ではありません。図工の時は、居眠りする事無く授業を受けていました。そして時が経って美術系大学に入り芸やデザインを本格的に始めました。それは昔から、ものを作る作業が自分の心を癒し、楽しませてくれていたからです。

～町～

新屋は昔、酒蔵も多く「ものづくり」の町でした。港の存在などは町のコミュニケーションツールにもなっていました。しかし時代の変化で車社会となり、町の人々は町の外へ出るようになり、コミュニケーションの場が減りだし活気を低下させました。現在、新屋には県内唯一の美術短大があり、やはり「ものづくり」を象徴し続けています。

情景2



文章

外観は内観の雰囲気負けぬ様に屋根を瓦にし、壁も板木で町家の雰囲気を全面に出します。のれんや、木の看板で雰囲気も作り、入り口横の教室Aは外から見えるよう大きめのガラス窓を設置し、会議などあまり外から見られたくない内容の時は、ロールカーテンを下ろしたりできるようにします。子供達のワークショップの開催時は、町和やかな雰囲気を漂わせる事ができると思います。

～町人～

音楽が国境を超える様に、アートや「ものづくり」の文化教室は世代を超える場であると思います。町の人々が文化教室を通して交流できる場は現在、西部公民館と支所が一緒になってできた「ウェスタ」がありますが、「ものづくり」を専門に行う場は無く、世代を超えるほどの交流には至らないのではないかと思います。町家で文化教室を行う事で、町を守りながら「ものづくり」の町として誇りのある町へと行ってください。

～作家～

また、作り手である作家さんはまず、作品を売る上で、自分の存在をアピールする必要があります。そんな時、文化教室での交流時間が作家の存在を主張できる場となり、作家の作品への安心感や信頼感に繋がって行くと思います。

優秀賞

優秀賞

提案のタイトル

サブタイトル

提案の内容

こどもの館

～ご近所さん復活計画～

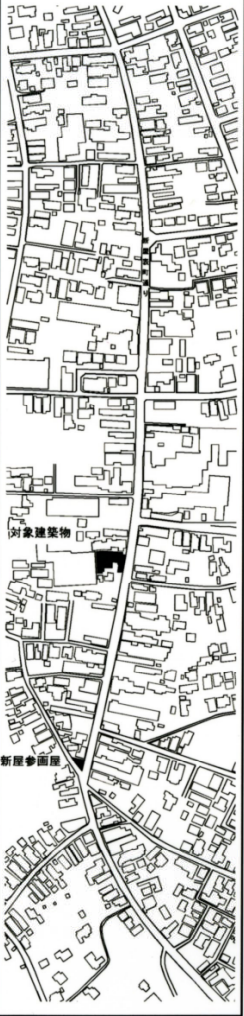
ようこそ「こどもの館」へ。ここは子供たちが集まり、子供たちの意思で何をするかを決める場所。

上級生が下級生に勉強を教えたり、みんなで何をして遊ぶかを決めたり、時にはお父さんお母さんたちを連れて山野に遊びに出掛けたり。それは全て子供たちの自由。やがて子供たちは自分で考え、実行する能力が身についていく。

子供同士の交流は親同士、大人同士の交流へとつながっていく。そして顔見知りが増え「ご近所さん」が増えていく。子供はご近所さんに見守られながら育っていく。古き良き建物である町屋を出来る限りそのまま活かし、昔では当たり前だったご近所付き合いを復活させる。

周辺案内図

S=1/5000



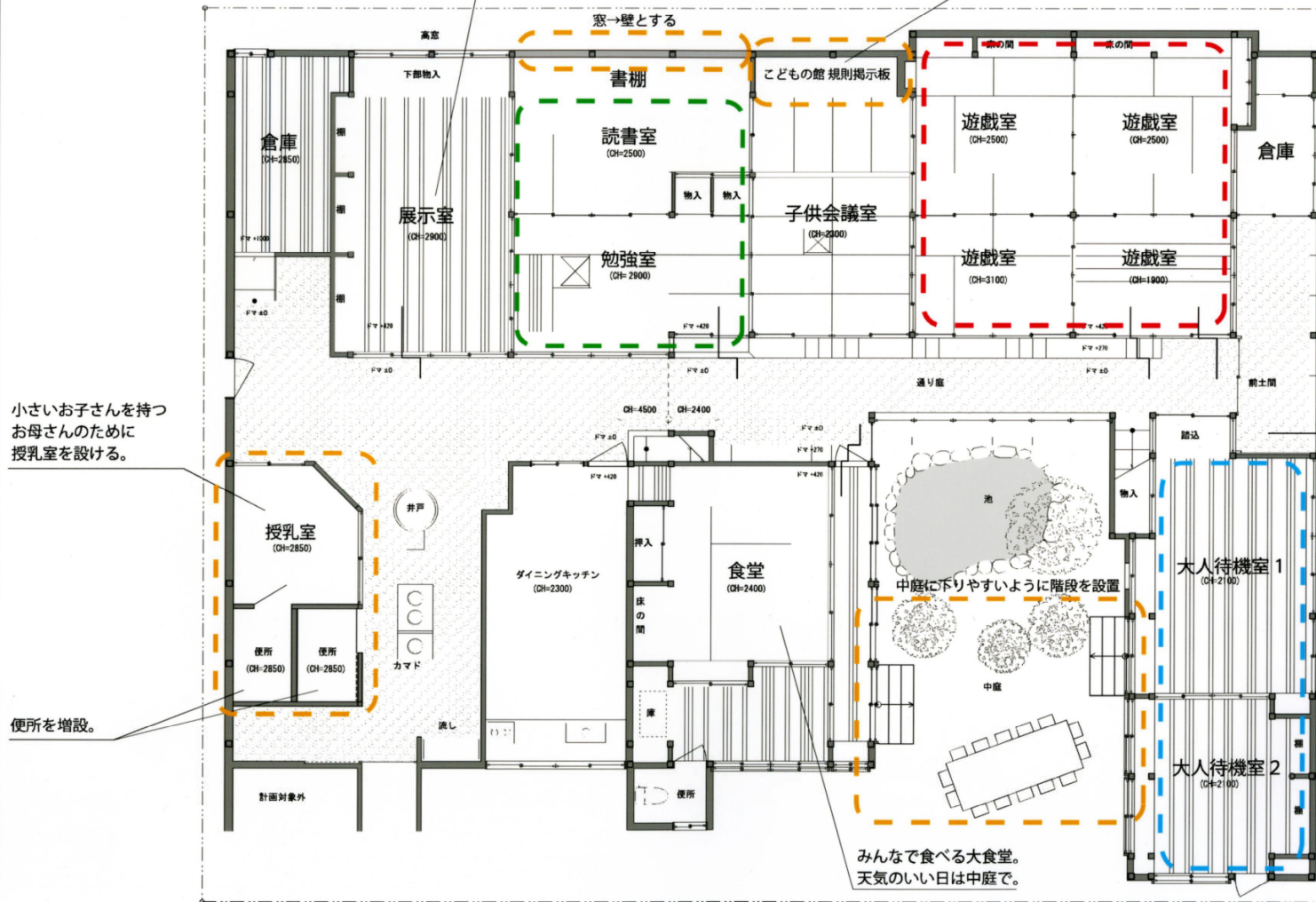
「町家」

～絵と文章による情景デザインコンペ～

ゾーニング

1階平面図 S=1/100

展示室には写真や子供たちの作った工作物などを展示。
これまでの新屋地区の歴史を振り返る写真類も展示。



小さいお子さんを持つお母さんのために授乳室を設ける。

便所を増設。

みんなで食べる大食堂。
天気の良い日は中庭で。

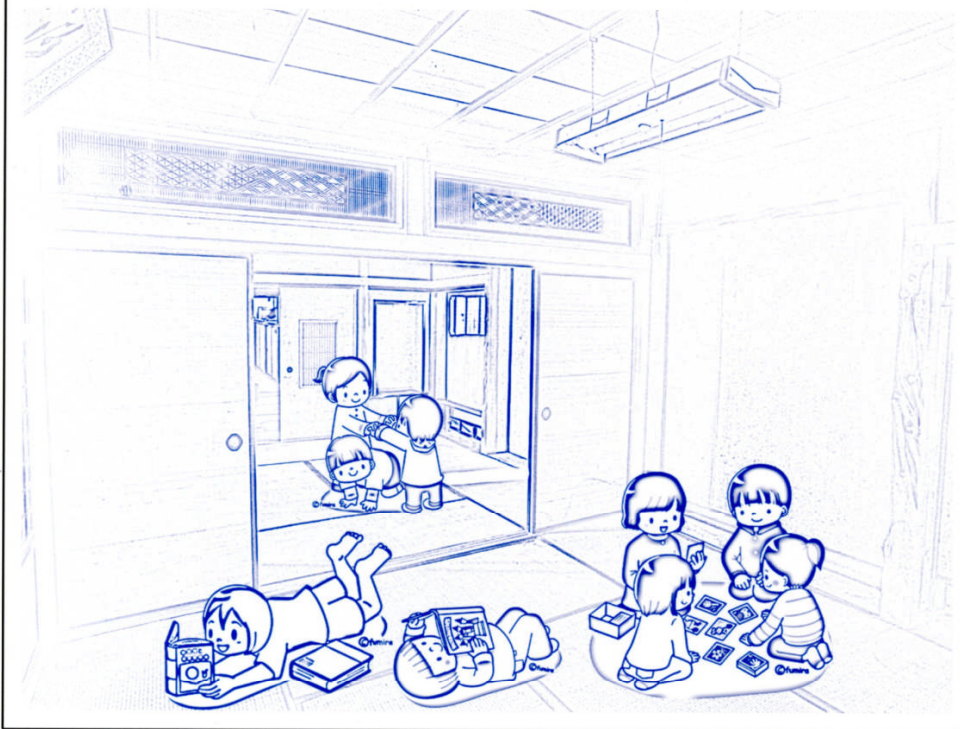
～こどもの館 規則～

1. みんな仲良くすること。
2. テレビゲームは持込禁止のこと。
3. 会議で決まったことにあとで文句をつけないこと。
4. 大人の言うことをよく聞くこと。
5. あいさつは無言良くなること。
6. そうじをきちんとすること。

新屋表町通り

- 学びの間
- 遊びの間
- 大人の間
- 改築箇所

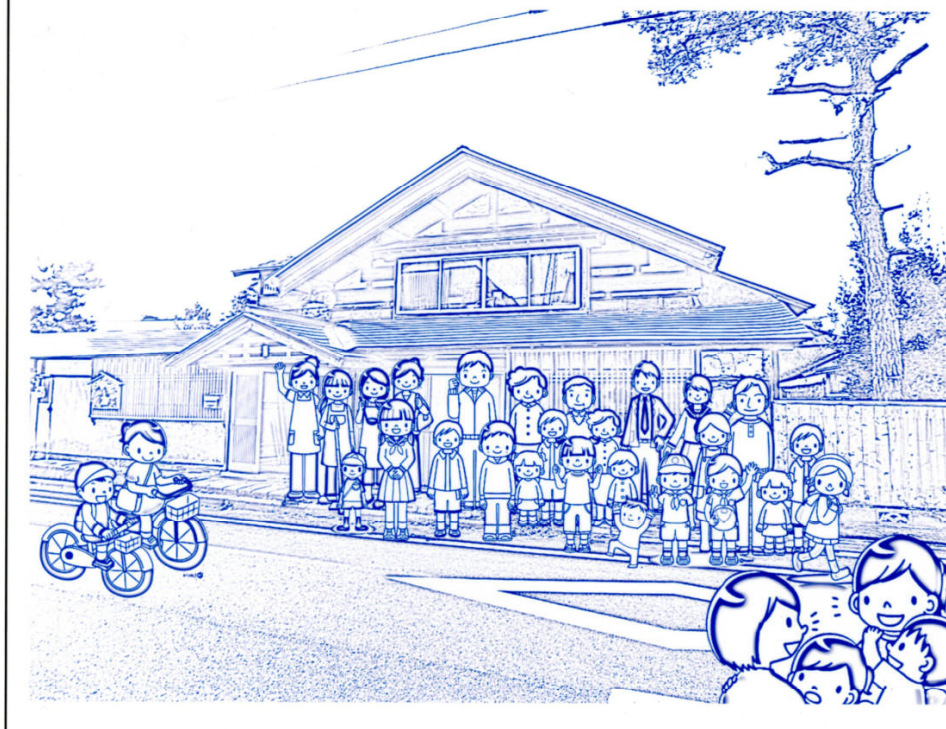
情景 1



文章

畳でゴロゴロ。
 みんなでゲラゲラ。
 天気のいい日はお外を探検。
 TVゲームは持ち込み禁止。
 みんなで遊んだり勉強したり。
 年上も年下もみんな入り混じって。
 時にはケンカもするだろうけど、頑張って子どもたちが解決。大人は優しく見守って。
 お父さん、お母さん、近所のおじいちゃんおばあちゃんもやってきて、自然と笑顔の輪が広がる。
 様々な年齢の人と触れ合った子供は、自然と人間関係が身についてくる。
 いつの間にか大人の人間関係も広がり、顔見知りの「ご近所さん」が増えていく。

情景 2



文章

みんなで記念写真。
 みんな友達。
 みんなご近所さん。
 ここを訪れる人たちはみんな笑顔になる。
 笑い声のあるところに人は集まる。
 それはとっても素敵な場所。
 きっと子どもたちの思い出の場所になるはず。
 ここで育った子どもたちが大人になって、親になって、またここを訪れて…。
 この町屋のように、みんな長〜い付き合いになるといいね。

優秀賞

提案のタイトル

サブタイトル

提案の内容

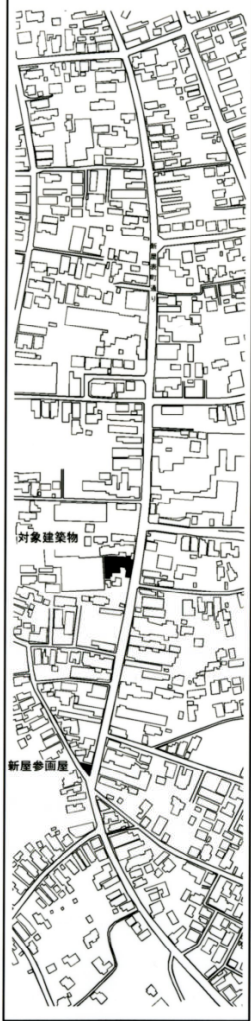
現代版寺子屋塾

～学校では教えてくれないことを学ぼう～

現代の子供たちは、家族以外の人間との係わりを避け、更に核家族化により年配の人との係わりを持たず、利便性や快適性のみを追求する社会で育つ。そのため、古き良き時代また悲惨な戦争の話、苦痛（寒さ、暑さ、痛み等）をほとんど知らない。その結果コミュニケーション能力の低下や、忍耐力の低下を引き起こし、人や物の痛みに鈍感な子供になってしまう。

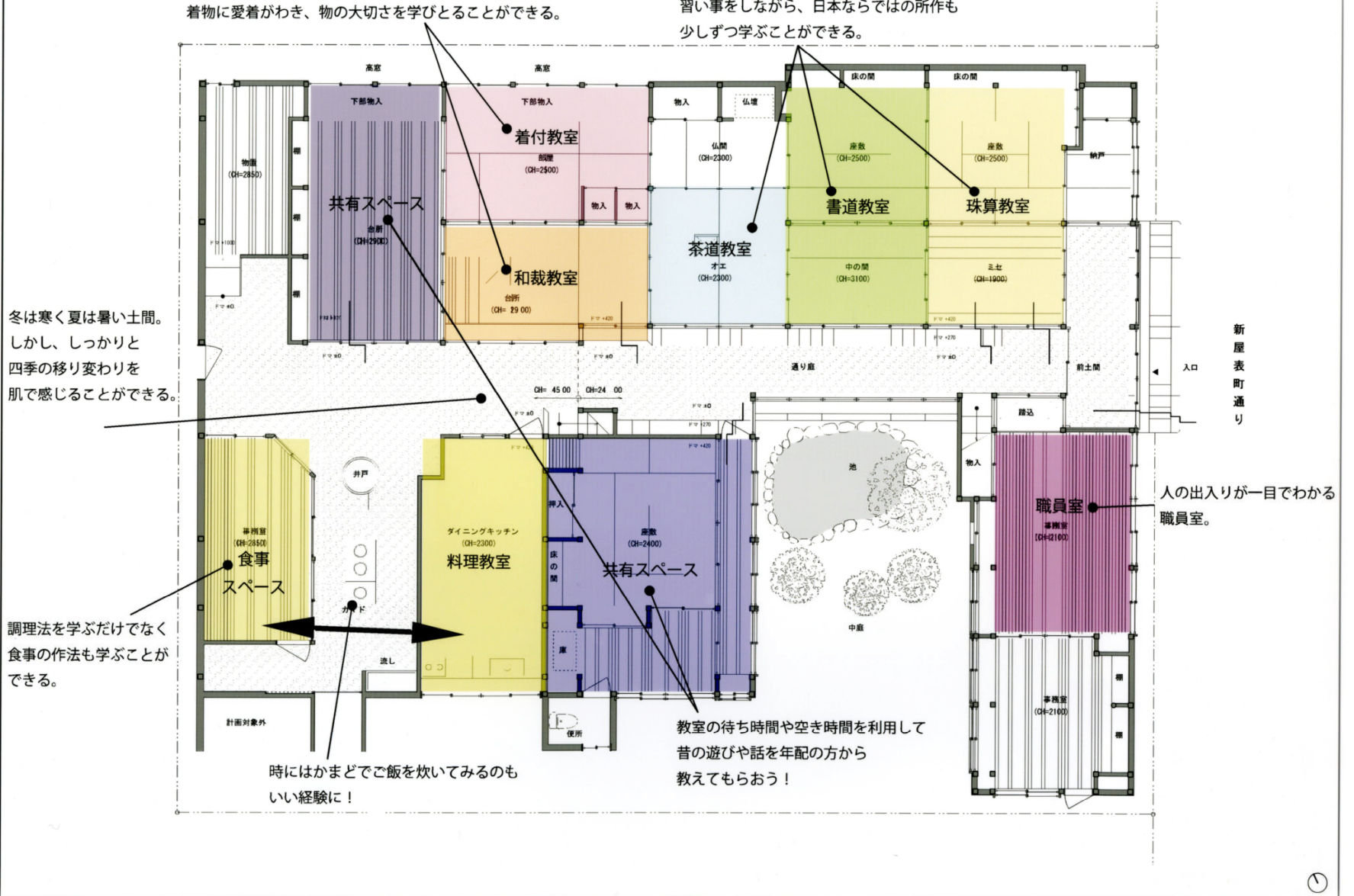
このような事態を回避するために、この町家を現代版の寺子屋として、**学校では学べない「人としての在り方」を学べる場**として利用したいと考える。

周辺案内図
S=1/5000



「町家」
～絵と文章による情景デザインコンペ～

ゾーニング
1階平面図 S=1/100





文章

現代の社会は、利便性や快適性追求するあまり、機械的な物ばかりが散乱し、そこからしか刺激を得られなくなってしまっている。しかし、本来の日本には機械的ではない自然と体に染み入るような刺激が日常にあったのではないだろうか。

この新屋の町家にはまだそんな昔ながらの刺激が息衝いている。歩けば「きしきし」と軋む床、「パチパチ」「しゃかしゃか」と襖の奥から漏れてくる珠算や茶道の音。木や畳、土間特有の香り。使い込まれこまれ味わい深くなった建物、美しい着物。料理教室からの差し入れや和菓子。直接自分の手で感じ学ぶ日本の文化。

この寺子屋塾には、こんなにも五感をくすぐる要素が溢れている。

昔は当たり前だったこんな風景も現代の子供や若者には、新鮮で十分刺激的なはずである。この寺子屋塾で学ぶことにより、古くても手入れをすれば新しいものにはない味わいを醸し出すことを知ることができるだろう。そして、自分自身もまた礼儀作法や知識や経験を身につけることによって、奥行きのある豊かな人間になれるということを知るのだ。



情景 2

文章

古き良き時代の町並みが残る新屋に建つ寺子屋塾。

日本の古来の文化である「書道」、「珠算」、「茶道」、「和裁」、「着付」、「料理」教室の複合体のこの寺子屋には、老若男女様々な人々が学びに教えにやってくる。

様々な世代の人々と交流することは、年配の人にはエネルギーを、子供たちや若者には経験や知識をあたえてくれる。

確かに、利便性や快適性を追求し、新しいものを生み出すことは大切である。しかし、そのことに固執するあまり日本人は大切なものを忘れてしまった。だからこそ、今一度原点に立ち返り子供や若者に本来の日本人の姿を伝え受け継がせていくこんな寺子屋塾が必要なのではないだろうか。

特別賞

特別賞

提案のタイトル

工房館あらや

サブタイトル

～交流と伝統の場所～

提案の内容

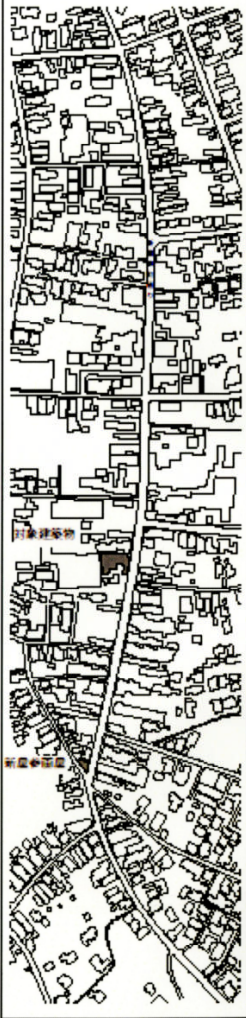
新屋表町通りの町並みを崩さずに、今の建物をそのまま…。そして最大限に活かし、秋田を満喫できる場所はどのような所か…を考え思いついたのが、手作り体験工房です。

また、地域や人との交流の場になってほしいという思いも込めました。

もっと若い世代とおじいちゃん・おばあちゃん世代が交流していくべきだと思いました。そして今回の提案に繋がる秋田の体験工房では、教える人が地域のおじいちゃん・おばあちゃん方ということです。新屋地域には、幼稚園・小学校・中学校・高校・短大と学校施設がそろうているため、新屋にはびったりの施設だと思いました。

周辺案内図

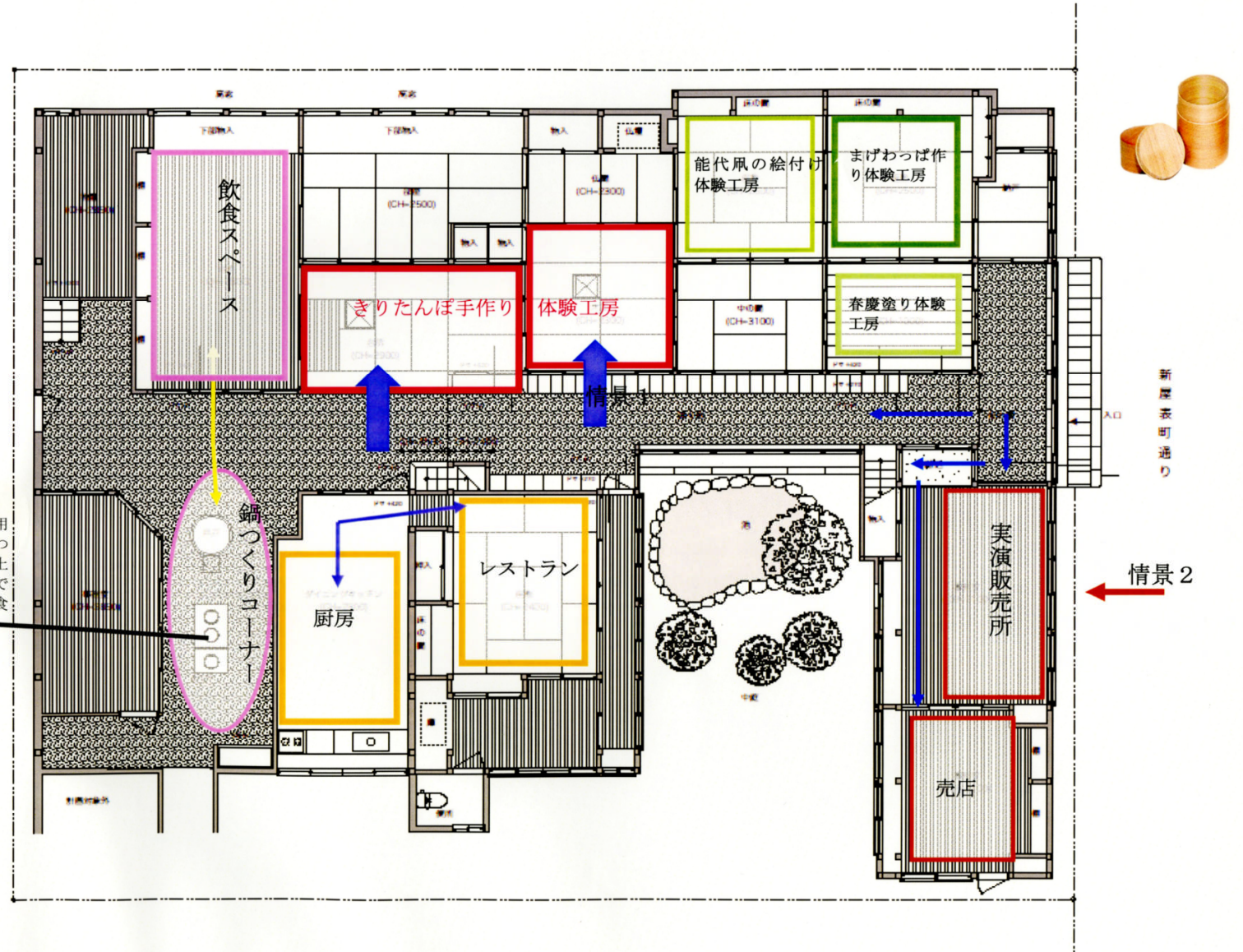
S=1/5000



ゾーニング

1階平面図 S=1/100

金戸・井戸をうまく利用し、秋田の代表的な鍋つくりを体験し、出来上がったら飲食スペースで自分たちで作った鍋を食べます。



「町家」
～絵と文章による情景デザインコンペ～



文章

情景 1

現在の建物にいろいろがあるということだったので、それをそのまま利用したいと思い、いろいろのある2部屋をきりたんぼの手作り体験工房にしました。もともとある物や設備を使うことでより一層、味がでて良いのではないかと思います。



文章

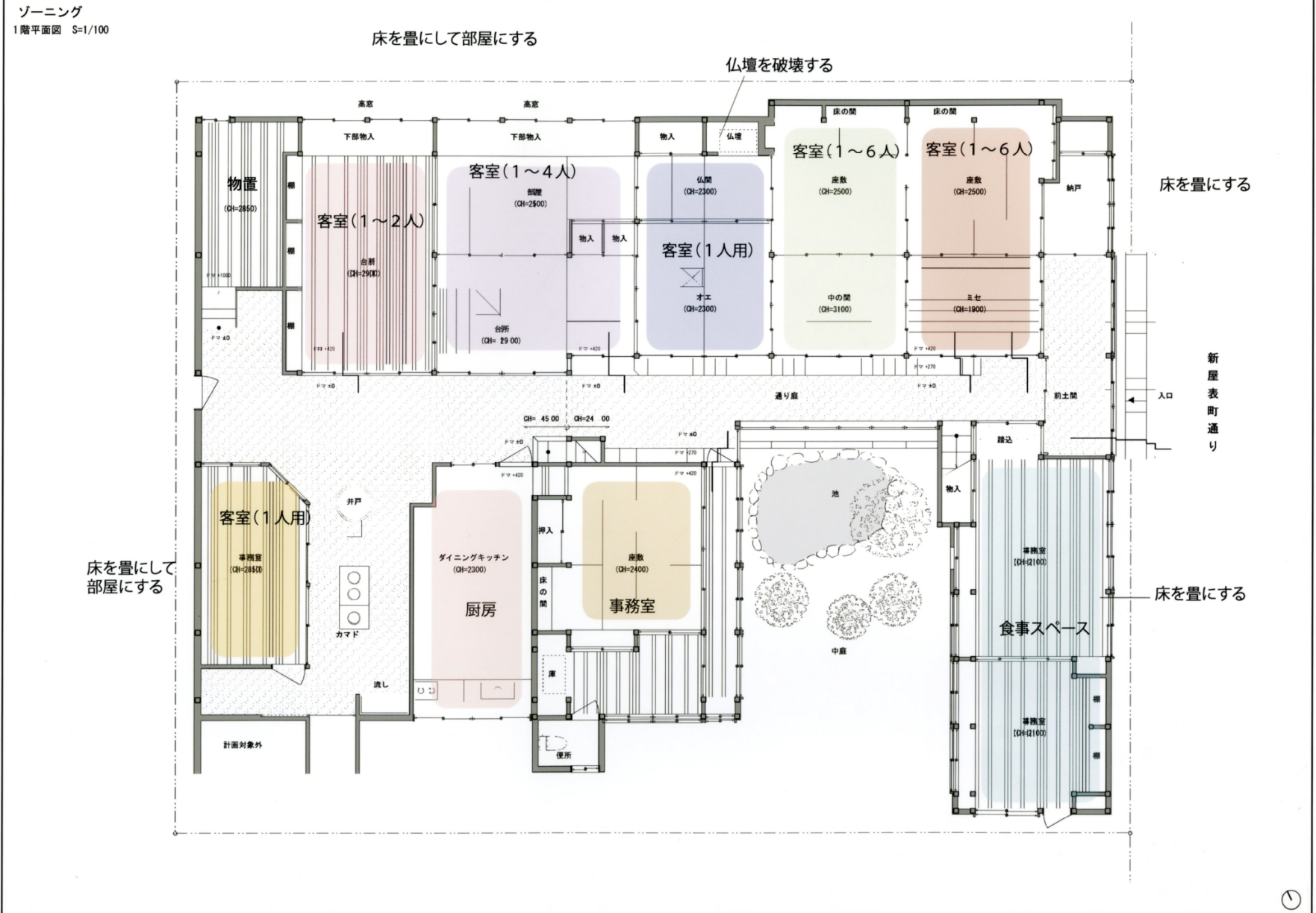
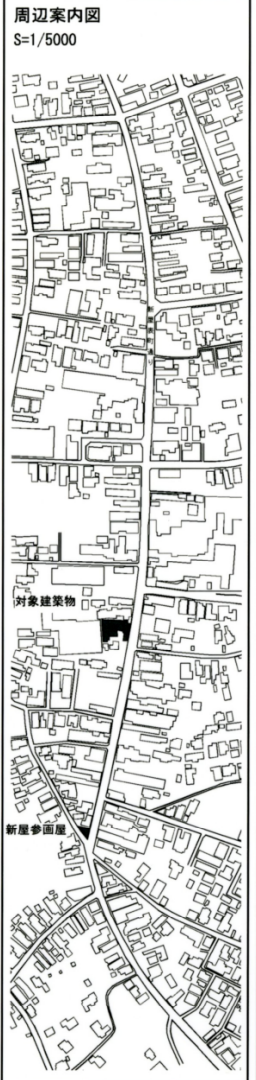
情景 2

道路に面する方には実演販売所を設けました。日本三大うどんでもある稲庭うどんなどの実演販売を行います。手作り体験だけではなく、職人の技を見ることが出来るのも魅力だと思います。

見物客で道路にも賑わいが生まれます。

特別賞

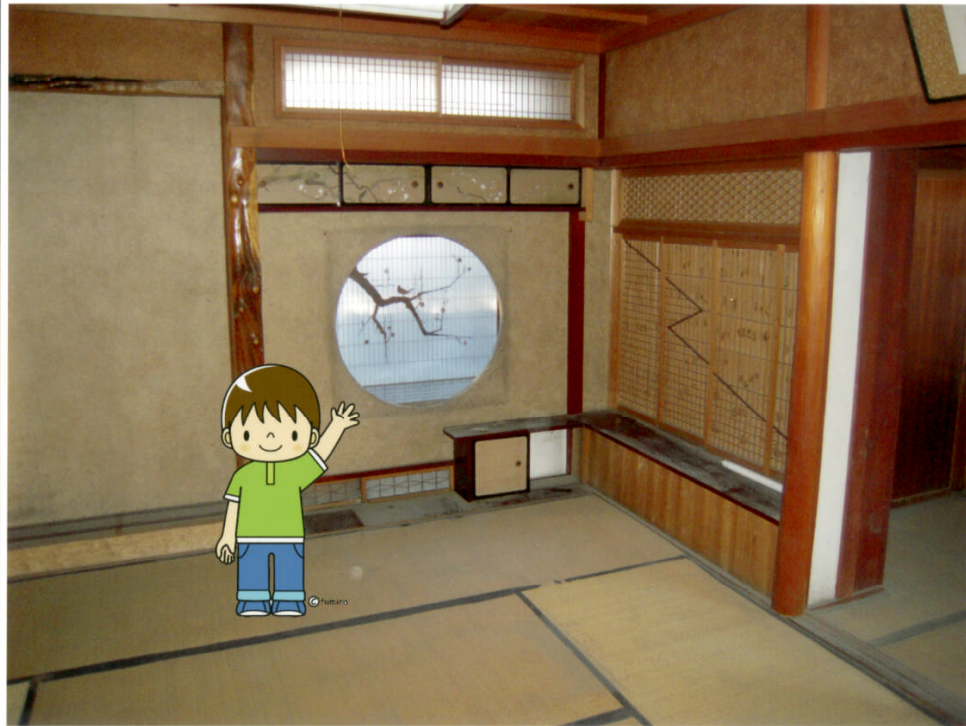
<p>提案のタイトル 民宿</p>	<p>サブタイトル ～第2の実家～</p>	<p>提案の内容 今の社会は悩みをかかいた大人が増えてきている。悩みをかかえていると寝れなくなって、不眠症になったりすることがある。しかし、町家が民宿にすることによって、泊まりに来た人たちが幼い頃住んでいた古い家(実家)を思い出し、幼い頃のように何も気にせず寝れる。期待して来たのに部屋のあきがなかったりするとお客様の気分を損ねたりするので部屋を多く造った。</p>
-----------------------	---------------------------	---



「町家」
～絵と文章による情景デザインコンペ～



情景 1



文章

新屋の町屋は秋田の歴史ある建物。
 歴史のある建物をより多くその良さを感じて、知ってもらうためには
 長い時間が必要だと思う。
 そこで一晩過ごせる民宿にしようと考えた。
 町家は歴史ある建物なので他県の人々に秋田が建物に対する大切さを
 知ってもらえれば町屋は良いと自覚してもらえる。
 そうすれば秋田の良さも増えるし、
 秋田の建物に対する評価もよくなってくる。

情景 2



文章

秋田市の中で新屋という町は昔ながらの建物が多く建っている。
 その新屋の町の中で民宿にすれば、
 昔の自分の住んでいた町の中で昔の自分が住んでいた家に住めるという
 子供の頃の懐かしい記憶がよみがえり何回でも来たくなる。
 それをねらっていれば営業もよい方向にすすむと思う。
 他県からも来たりして秋田のイメージをよくする。

特別賞

提案のタイトル

サブタイトル

提案の内容

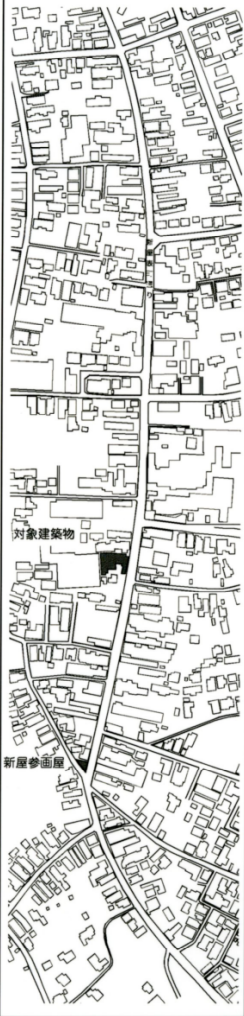
うま美味っ！町屋の台所

～作る・味わう・郷土の味～

新屋は『秋田の台所』といわれ生活にかかすことのできない味噌や醤油、お酒などを作っている。そんな新屋の美味しい食材を使った料理をこの町屋で提供することはできないだろうかと考え、郷土の味を楽しむ食堂を提案。
ただ食べてもらうだけでなく、料理教室を開き、郷土料理にふれる機会を増やしてもらいたい。例えば、中にあるいろりを使い、秋田名物のきりたんぼを焼く体験をしてもらったり、新屋で作られている味噌や醤油を調味料に使ってもらうなど。
町の住人だけでなく、地元の小、中学生にも郷土料理にふれてもらうため校外学習などにこの場所を提供してもらいたいと思う。
そうすることで地元にもっと関心が出てくるのではないだろうか。

周辺案内図

S=1/5000



「町家」

～絵と文章による情景デザインコンペ～

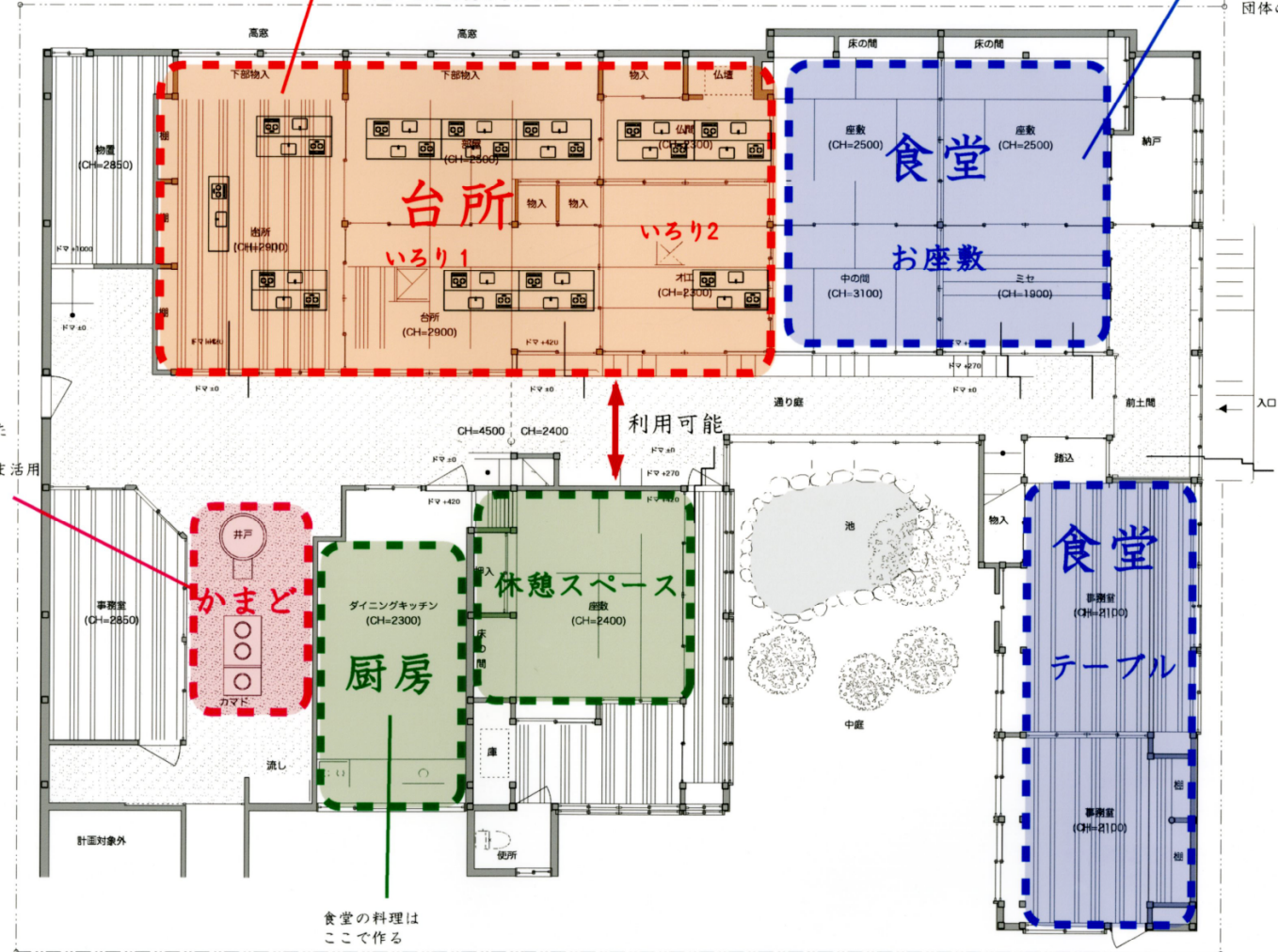
ゾーニング

1階平面図 S=1/100

いろりだけを残し、台所を設置
床をフローリングにし
いろりはきりたんぼ作りや鍋料理等に使用
部屋の広さを変えられるよう仕切りは残しておく

普段は郷土の味を楽しむ食堂として使用
部屋の仕切りを使えば団体のお客様も利用可能

料理教室でかまどを使ったご飯づくりなどを体験
かまどは改装せずそのまま活用



食堂の料理はここで作る

新屋表町通り

情景1



文章

普段は郷土料理などを食べてもらう食堂として利用してもらうが、ただ食べてもらうだけでなく郷土料理を作る楽しさを知ってもらうために月に何度か料理教室を開くことにする。内部は台所をたくさん設置するスペースに改装し建物の良さを残すため最初からあったいろりをそのまま残す。いろりは秋田名物のきりたんぼやしゅつつるをつくるために使用。床は料理のしやすいよう畳からフローリング仕様にする。

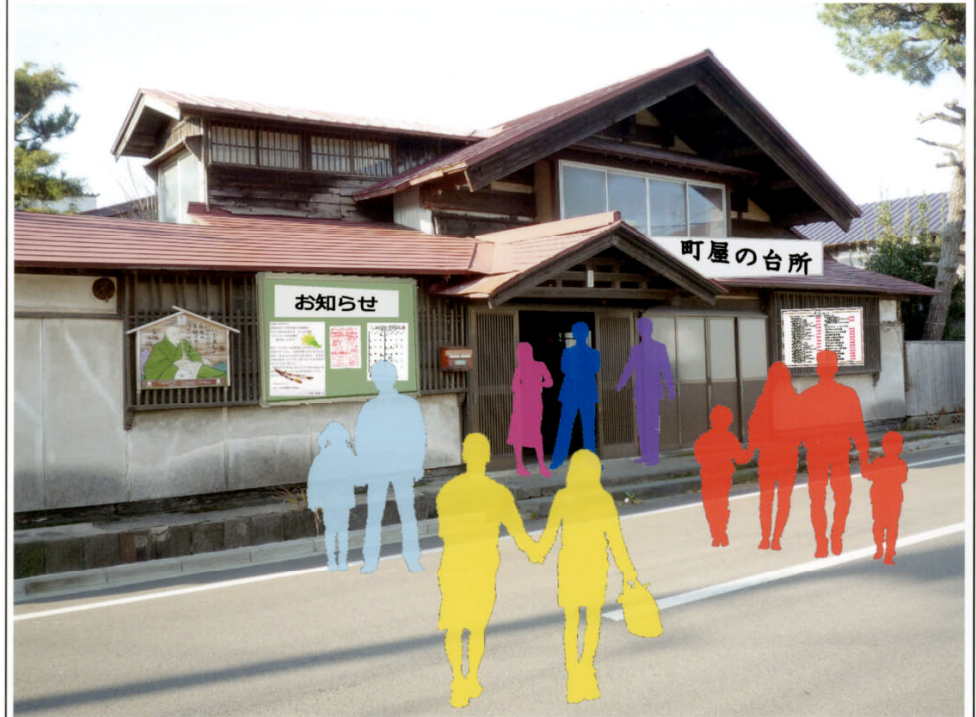
料理教室に来てくれた人数に応じて部屋の広さを調節できるように、仕切りもそのまま残し少人数だったとしても料理教室が行えるようにする。

郷土の味に舌包みをし、どこか懐かしい感覚に浸れるのではないだろうか。

sheet 2 (内部空間を表現)

「町家」
～絵と文章による情景デザインコンペ～

情景2



文章

外部は特に改装せず、古くから残ってある形をそのまま残し、屋根と壁面は誰でも親しめるよう明るい色塗り替えモダンな感じにする。

外には看板をつけ食堂のメニューを貼り、料理教室の日時などを知らせるための掲示板を設置。料理教室のお知らせだけでなく5月に開催される日吉神社の祭りなど新屋で行われている様々な行事を知らせるためにも活用していただきたい。

この掲示板で料理教室の日程を見に来る人だけでなく近々、行われる行事はなんだろうと通りかかった人が一度足を止めてくれるのではないだろうか。

sheet 3 (外部空間を表現)

「町家」
～絵と文章による情景デザインコンペ～

特別賞

提案のタイトル

サブタイトル

提案の内容

落花生

～囃めば囃むほど味が出る
聞けば聞くほどのめりこむ～

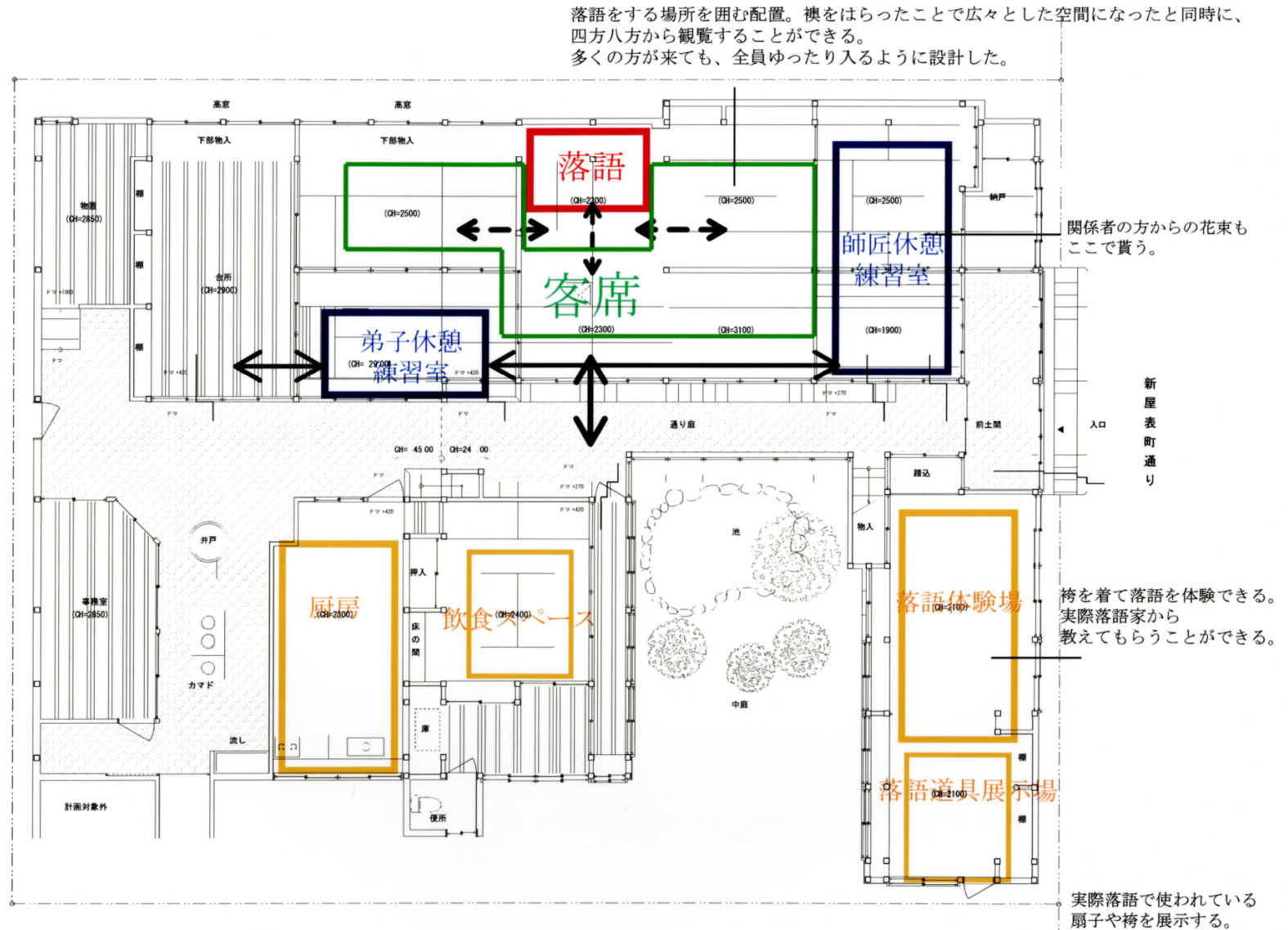
秋田に古くから親しまれている落語を聞く場所はない。そこで歴史ある風景が多い新屋で、気軽に落語を聞くことができるのではないかと思います。落語場を提案する。扇子1つで様々な表情を表現でき、笑いを与えてくれる落語は老若男女問わず人気が高い。笑うことで日ごろのストレスを発散できるのではないだろうか。

周辺案内図
S=1/5000



「町家」
～絵と文章による情景デザインコンペ～

ゾーニング
1階平面図 S=1/100





文章

公演が始まる前から大勢の方が会場に入ってきた。楽しみにしていた方が多いようで、賑わっている。しかし落語家が高座に入ってきた瞬間静かになった。皆耳を傾けている。同時に扇子を巧みに使い様々な表情を表現するのに感心し、目が離せないでいるようだ。落語家は話の途中で笑いを入れる。だから終始笑いが絶えない。部屋中笑いに包まれる。外で散歩していた人も、何が起こったのか気になり中に足を運びにきた。それに続いて多くの方も来る。そして座敷には人が入りきらないくらいにまでなった。公演が終わった後も余韻が残っている。皆また来ると笑顔で帰って行った。



文章

今まで秋田で頻繁に行われなかった落語が毎日のように聞けるということで公演前の会場には楽しみのあまり夜も眠らずに並んだという方も訪れた。県外から町屋までのバスツアーがあるらしい。少し向こうでは、近所に住んでいる子供も父母と一緒に仲良く手を繋いでこちらに向かっている。その後ろには家族全員で歩いてきている人もいる。その横には中高生の列も見える。世代は違うが、皆落語が好きというのは同じだ。落語は笑い、泣き、感情豊かになる。笑うと嫌なことも忘れてしまう。心も癒される。いつも笑顔でいると、人が自然と寄ってくる。一緒に福も来る。いずれ町屋だけでなく徐々に新屋全てが笑いに包まれる幸せの場所になるだろう。

特別賞

提案のタイトル

サブタイトル

提案の内容

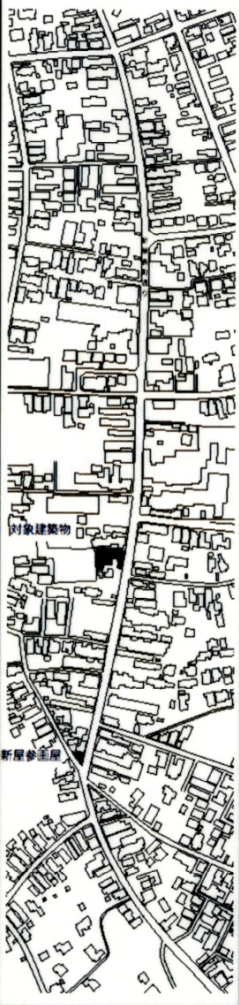
まちの中で遊ぶ

まるごと新屋商店街

子どもたちがまちや美短生と関わり合いながら、まちの中で遊ぶことの楽しさを発見し、この町家一軒で新屋商店街の仕組みが分かるようにする。学校帰りに気軽に立ち寄って、地域の人と関わることで、まちについて学ぶことができる場所。そんな風に子どもたちが積極的にまちづくりに参加できる場所としても機能する。また、昔遊びワークショップや美短生の提案するアートワークショップを定期的に開催したり、常に子どもたちを含めた地元住民に解放された場所として活用する。

周辺案内図

S=1/5000



「町家」
～絵と文章による情景デザインコンペ～

ゾーニング

1階平面図 S=1/100

意外と知られていない新屋商店街の技と食を子どもたちに知ってもらい、創作を通してより親しみを持ってもらうことが目的。

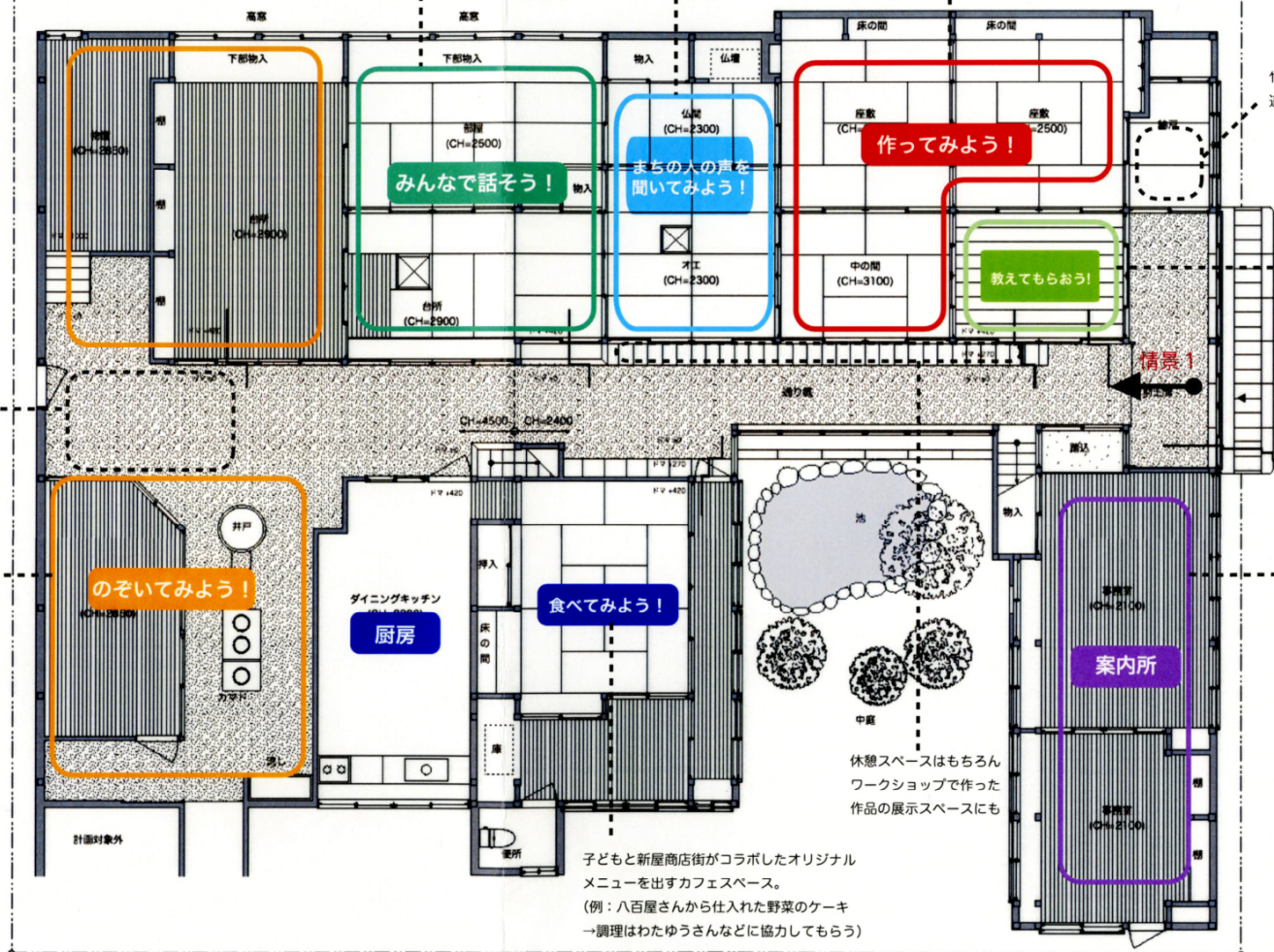
雨の日も竹馬やコマ回しなどのアウトドアの遊びができます。

かつて醸造業や養蚕業を営んでいた渡幸さんのお店にちなんだ道具を置いて当時の様子を再現する。

新屋発のB級グルメの提案などカフェの新メニューを考えたり、遊びの計画などを企画する場所。

まちの人の話を聞く昔語りスペース。団炉裏を囲みながらゆっくり団らん。

遊びの道具を作ったり、美短生の提案するアートワークショップなどを行うスペース。新屋商店街のお店にまつわる簡単なワークショップなども（例：染め物屋さんとコラボして簡単な染め物を作ったり）



竹馬やコマなどの遊びの道具の収納場所。

ミセは、新屋商店街の『技』を紹介する『見て学ぶ』ブース。入れ替わりでお店にまつわる道具を置いたり、実演・説明してもらいます。

新屋表町通り

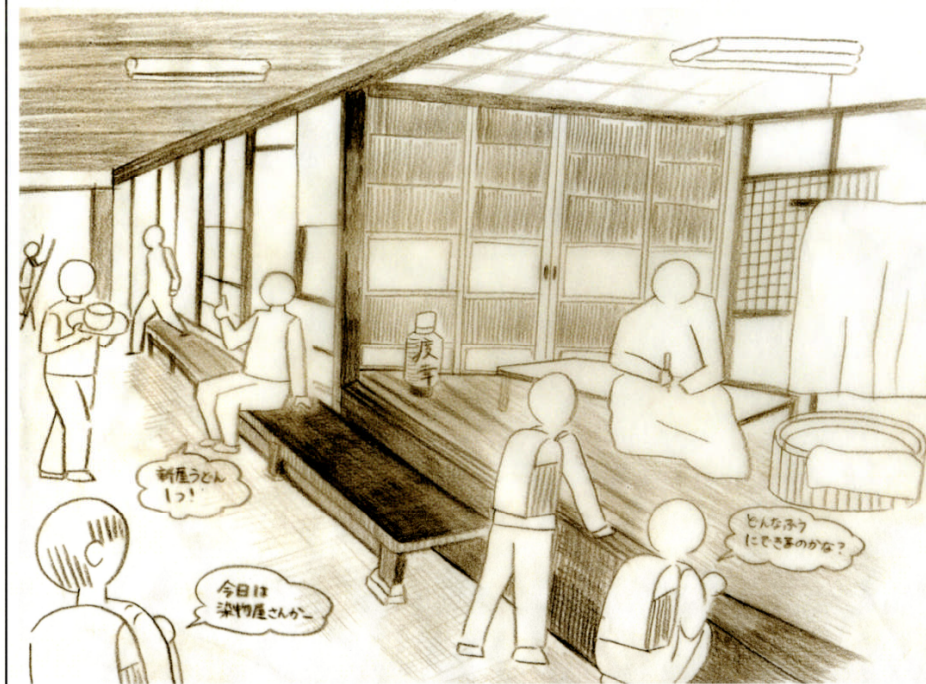
竹馬などの道具を貸し出したり、ワークショップの企画・運営などを行うこの町家を総括・案内する場所。

休憩スペースはもちろんワークショップで作った作品の展示スペースにも

子どもと新屋商店街がコラボしたオリジナルメニューを出すカフェスペース。
(例：八百屋さんから仕入れた野菜のケーキ
→調理はわたゆうさんなどに協力してもらう)



情景1



文章

○月×日(△曜日)

今日は渡幸さんのおうちに行きました。入ったらすぐに染め物屋さんが染め物を作っているところを見学しました。布がきれいな色に染まっいて、自分も作りたいな、と思いました。明日は何屋さんか来て、何を作ってくれるのかな。真っすぐ向かう途中、近くの部屋からはうどんを作っているにおいがして、おなかがかぐうぐうなりました。そして、おくの部屋ではお兄さんとお姉さんたちがひみつきちを作る話し合いをして、自分も仲間の一員に入れてもらえることになってうれしかったです。どこに作るかはほかのみんなにはひみつです。そのあと、一番おくて〇〇のおじいちゃんとコマ回しの練習をしました。何回かは失敗したけど、今日は今までで一番上手に回せました。おじいちゃんも、「すごいぞ!」とほめてくれてとてもよかったです。もっと練習して、もっとうまくなりたいです。明日は竹馬づくりやお店の新しいメニューを考える日なので、楽しみです。となりのクラスの□□ちゃんもさそって行きたいです。